

景観まちづくり学習 レポート

福山市立水呑小学校 5年生

誇りと愛着を持つことのできる美しいまちをつくり、育て、次の世代へと伝えていくには、子どもの頃から、身近なまちや良好な景観に対する関心を持ち、一人一人の景観やまちづくりに対する意識を高めることが大切です。

水呑小学校では、今年6月、5年生（3クラス95人）を対象とした「景観まちづくり学習」を行いました。景観についての

学習やまち歩き、グループでの話し合いなどを通じて、自分たちのまちについて知り、将来のまちの姿について考えました。

また、地域の方々にも協力いただき、一緒にまち歩きをしながら、歴史的な建造物などについてお話を伺いました。児童と交流しながら、地域の景観やまちづくりについて考える機会にもなりました。

第1回 「景観」って何？ 6月8日(金)5.6校時

景観をどのように捉えればよいか、景観についての基本的な学習をしました。児童は、講師を務めた職員の質問に対し、積極的に手を挙げて発表していました。



また、地域で大切にされてきた、水呑町を代表する景観について、写真などを使って紹介しました。



芦田川と芦田川大橋



水呑七泉



水呑八幡神社のお祭り



お寺からの水呑町の眺め

「景観」って何？

「景」
まち並みやたたずまいなど、眺められる「対象」をあらわす…風景、景色

「観」
それを眺める「主体」である私たちの感覚をあらわす

観る人の心に現れる景色

どんな「景観」がある…？



いろいろな景観を見つけて発表してくれました。

■ マインドマップづくり

「水呑」について連想する言葉を地図のように自由に書き出し、「水呑」のイメージをふくらませました。

20分位の作業時間にもかかわらず、多い班では100個以上の言葉が飛び出し、模造紙に収まりきれないくらいになりました。



みんな、どんどん書いています



地域の方も参加してくれました



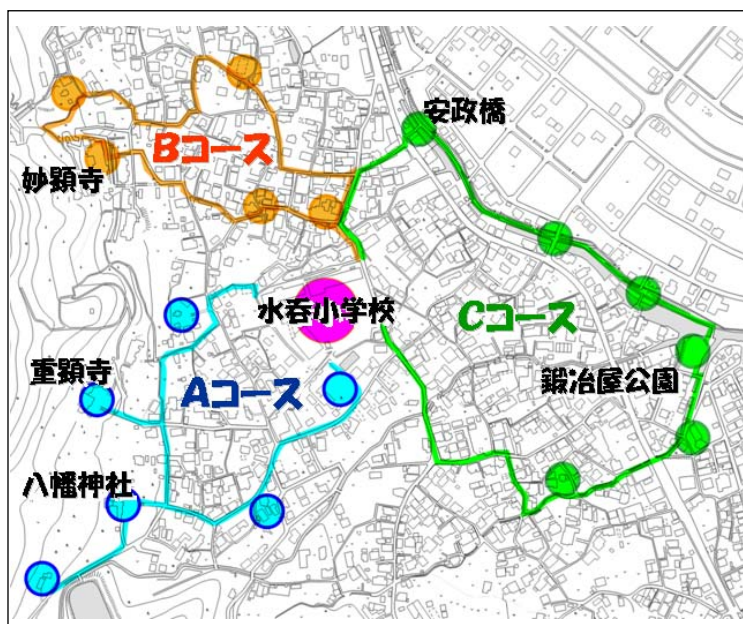
たくさん書き出した班の発表



完成した主なマインドマップ。「水呑」から連想する言葉をたくさん書き出してくれました。
熊ヶ峰、芦田川、花火、竹ヶ端、日の出、八幡神社、鳥居、スーパー……

第2回 タウンウォッチング 6月15日(金)5. 6校時

待ちに待った「まち歩き」です。
まち歩きの視点（ポイント）やカメラの使い方、注意事項などを説明した後、出発しました。



A, B, Cの3つのコースに分かれて調査しました

3つのコースに分かれて、良い景観や悪い景観、面白い景観など、班ごとに写真を撮りながら調査しました。

地域の方々にも協力いただき、一緒に

歩きながら歴史的な建造物などについても説明していただきました。

いつも見慣れた学校周辺にも、新たな発見や気づきがたくさんありました。



地域の方から歴史も学びました



林の中も散策しました



気づきをパチッ！

第3回 取りまとめ 6月22日(金)5.6校時

まち歩きでの気づきを班ごとに話し合い、撮影した写真などを活用して、調査結果をマップにまとめました。

最後に、コースごとに代表の班に発表してもらいました。



班ごとに話し合いながら、思い思いに取りまとめていきます。



まとめたポイントを発表



まち歩きをしながら見つけた良い景観や悪い景観、気づいた点などを書き出して、自由にまとめました。「こだわり」をもって調べて、上手にまとめた班もありました。「水呑」のまちをもっと良くするために、考えたことをまとめた班もありました。

子どもたちの感想から...

学習の最後に、今回の景観まちづくり学習を通じて気付いたことや分かったことなどを発表してくれました。

- **ポイ捨てがあって残念なところもあったので、周りをきれいにすれば、もっと良くなると思った。**
- **景観とは、色々なものからできているきれいな景色だということが分かった。**
- **水呑には、良い景観のところがたくさんあったけど、悪いところもあった。悪いところを直せば水呑町はもっといい町になると思った。**
- **探検して悪い景観のところもあったけど、周りにあった形や色にしたらもっと良くなると思った。**
- **水呑町にはいい景観と悪い景観があったけど、いい景観のほうが多かった。これからは、悪い景観を良くしていきたい。**
- **最初は景観という言葉も分からなかったけど、この学習で景観のことを知れたし、色々とおもしろかった。**

私たちにできること...

景観まちづくり学習を通じて、地域にはすばらしい景観がたくさんあることが分かりました。これらの景観は、地域の方々によって大切にされてきたものでした。

これらの良い景観をこれからも「守り・育てて」いくために、そして、もっと魅力的なまちにするために、新たに「見つけ・磨いて」いくために、私たちにできること...

多くの子どもたちが、そんな気持ちを持ってくれたように思います。これからの子どもたちの活動が、地域のまちづくりにつながっていくことを期待しています。